

○記号・略語の説明

◆…事業計画書にある項目

◇…事業計画書にない項目

新…新規事業

重…重点事業

募…共同募金配分事業

〇〇から受託…受託事業

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-1
	拠点区分	補助金事業	決算書	74頁
	サービス区分	法人運営		

【事業報告】

(1) 法人運営

◆理事会、評議員会、監査会の開催

理事会	4回
評議員会	4回
監査会	4回

◆各委員会の開催

経営企画員会	7回
評議員選任・解任委員会	2回（内、書面決議 1回）

◆例規管理

◆法人沿革整理

◆視察受け入れ

実績	0件
----	----

(2) 労務管理業務

◆人事管理、職員採用、資格取得支援

◆福利厚生

◆健康診断、ストレスチェック

◆ハラスメント対応

相談件数	2件
------	----

(3) 施設管理営繕業務

◆備品管理

◆社内LANシステム管理

◆社有車両管理

◆貸館業務

(4) 福祉サービス苦情解決事業

◆第三者委員会の設置（共同設置）

介護保険サービスおよび障害福祉サービス利用者等がサービスを適切に利用できるよう支援することを目的に、三重郡内の社会福祉協議会と施設（三重郡老人福祉施設組合 みずほ寮、社会福祉法人檜の里 あさけ学園）が共同で設置している。

◆苦情の受付、解決業務

介護保険サービスに関する苦情	16件（内未解決0件）
障害者総合支援サービスに関する苦情	7件（内未解決0件）

上記以外の苦情	35件（内未解決0件）
第三者委員会の開催	2回
第三者委員苦情解決相談会の開催	1回 相談件数 1件

(5) 権利擁護事業 **重**

◆成年後見制度の利用支援

成年後見制度や任意後見制度について説明し、利用に向けた手続きのアドバイスを行った。

◆法人後見受任者支援

受任件数 4件（後見4件）

（令和4年度内 新規0件 終了0件）

◆法人後見委員会の開催

4回

（新型コロナウイルス感染防止のためオンラインと来場の併用開催）

(6) 社会福祉法人地域公益活動の取り組み **重**

◆三重県社会福祉法人地域公益活動事業への参画、協力

みえ福祉の「わ」創造事業への参画

◆町内社会福祉法人連絡協議会の運営

実施なし

(7) 経理業務

◆効率化による適正な会計業務

(8) 自主財源の確保と活用

◆福祉基金の造成等

篤志寄付 27件

篤志額 3,017,691円

寄贈物品 米、もち米、非常用備蓄食品（防災食品）、緊急支援物資、
新型コロナウイルス感染防止対策用品等

福祉基金活用額 1,800,000円

年度末積立総額 180,069,569円

◆介護予防・日常生活支援総合事業の立ち上げ時等の助成金交付

対象となる団体がなく助成金の交付なし

【まとめ】

- 採用後の資格取得の支援を拡充し、資格未取得者や高校新卒者の採用を積極的に行った。
- 法人運営や労務管理に関する法改正等への対応を行った。

- 自主財源の確保については、長引く新型コロナウイルスの影響により寄付の件数は減ったが、定期的な篤志者からは継続した寄付があった。
 - 令和4年度は、菰野ライオンズクラブの解散による多額の寄付や保健福祉センターやき一般浴利用者による多額の寄付があった。
 - また、昨年度同様、特定の団体からの継続的な食糧物資の寄贈や新型コロナウイルス感染対策用品の寄贈があった。
- 法人後見業務については、対応が難しいときは、後見委員の弁護士から専門的なアドバイスを得ることができている。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-2
	拠点区分	補助金事業	決算書	74頁
	サービス区分	ボラントピア事業		

【事業報告】

(1) ボランティアセンター事業

- ◆ボランティア活動の振興

(2) 啓発推進事業

- ◆町社会福祉協議会広報紙「みんなのふくし」の発行 募
全戸配布（月1回発行）

- ◆各種広報の実施

- ◆ホームページ管理

ホームページ訪問者数	17,150人
ブログ訪問者数	21,887人
ブログ投稿数	123件
フェイスブックリーチ数	11,453人
フェイスブック投稿数	130件

- ◆YouTube「けやきチャンネル」の配信 募

- ◆地域福祉教育推進事業の支援および推進 募

- ◆福祉協力校事業 募

依頼件数：19件（内社会見学受け入れ4件）

(3) 養成研修事業

- ◆地域サポーター養成講座 募

1回 16人

- ◆各種ボランティア養成講座の開催

点訳ボランティア養成講座 全4回 延べ34人

(4) 登録斡旋事業

- ◆ボランティア登録および情報管理

①ボランティア活動者数

個人ボランティア数	95人
団体数（ボランティア活動を主目的）	550人（45団体）
団体数（ボランティア活動以外を主目的）	24人（3団体）

②ボランティア連絡協議会登録者数

343人

- ◆ボランティア斡旋業務の充実および推進

ボランティアセンターでの相談対応件数 94件

- ◆災害ボランティア派遣等業務

派遣実績なし

(5) ボランティア組織化事業

◆ボランティア連絡協議会への協力支援

ボランティア連絡協議会助成	840,000円
ボランティア活動交付金	25,000円×18団体
ボランティア事業助成金	20,000円×8事業

◆ボランティアグループへの協力支援

◆新しいボランティアグループの組織化の検討

新規ボランティアグループ登録 3団体

(6) 活動基盤整備事業

◆ボランティア保険の取り扱いおよび利用促進

ボランティア活動保険加入者数	610人
ボランティア行事用保険	159件 4,146人

◆各種助成制度の利用促進

ボランティアセンター登録団体の各助成金制度利用 2件

【まとめ】

- けやきフェスタは新型コロナウイルスの影響により、今年度も開催できなかった。YouTube チャンネルでは、現在21本の動画を配信しているが関係団体からの投稿も減っているため、新たな啓発方法について協議が必要である。
- 福祉協力校事業は、今年度は複数依頼を受けた。福祉協力校に事業助成を行い、各校で福祉教育の取り組みが行われた。各依頼に合わせてボランティアグループの協力を得るなど、福祉教育の幅も広がった。
- ボランティア養成講座は、今年度点訳講座を開講し、ボランティア加入につながった。
- ボランティア団体およびボランティア活動者について、新規で団体を立ち上げようとする団体の相談に応じた。
- 活動の増加に伴い、昨年度よりボランティア行事保険加入件数・人数が増えた。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-3
	拠点区分	補助金事業	決算書	74頁
	サービス区分	ふれあいのまちづくり事業		

【事業報告】

(1) 地域福祉活動推進事業 **重**

- ◆町地域福祉活動計画・町社会福祉協議会発展強化計画の進捗管理
菰野町地域福祉活動計画推進委員会 1回

(2) 小地域福祉ネットワーク事業 **重**

◆小学校区単位の小地域活動実践

生活支援体制整備事業（管理No.2-1-12）に記載

竹永地区福祉会たすけあい♥竹永の活動支援

役員会 1回 参加者 10人

理事会 2回 参加者 延べ28人

◆鵜川原地区福祉会活動の実施 **新**

鵜川原地区福祉会ふれあい鵜川原の活動支援

検討会 5回 参加者 延べ75人

鵜の里茶の間 5回 参加者 延べ146人

◆地区福祉懇談会の開催

菰野西地区 1回 参加者 23人

菰野東地区 1回 参加者 18人

鵜川原地区 1回 参加者 17人

竹永地区 1回 参加者 10人

朝上地区 1回 参加者 33人

千種地区 1回 参加者 26人

◆小地域ふれあいネットワーク事業の推進 **募**

①ふれあい弁当事業の実施（センター方式、地区別方式）

センター給食 2,449食

ボランティア 延べ219人（配達は民生委員）

各地区のふれあい弁当 菰野地区 622食

鵜川原地区 293食

竹永地区 123食

朝上地区 626食

千種地区 341食

ボランティア 延べ774人

給食会議 0回

②ふれあいネットワークの集いの開催

新型コロナウイルスの影響により中止。

③介護者の集い

新型コロナウイルスの影響により中止。

◆日常生活再生支援事業の実施

ケースの相談がなく、事業実施はなかった。

(3) 地域福祉活動モデル事業

◆調査研究

令和3年度に住民意識調査を前倒し実施したため、令和4年度は実施なし

◆先駆的・開拓的サービスの開発

住民参加型在宅福祉サービスグループへの支援

・いいね！大羽根地域まごころサポートサービス

利用会員 16人 提供会員 22人 賛助会員 17人
年間活動時間 588時間（前年比24.5時間増）
定例会 毎月第1水曜日 9回開催

・くらしサポートこもの愛の手

利用会員 16人 提供会員 15人
年間活動時間 151.5時間
定例会 毎月第2木曜日 10回開催

・たすけあい♥竹永

利用会員 7人 提供会員 23人 賛助会員 3人
年間活動時間 283時間（前年比30.5時間増）
定例会 毎月第2月曜日 12回開催

・朝上ささえ愛

利用会員 21人 提供会員 35人 賛助会員 3人
賛助団体 1団体
年間活動時間 348時間（前年比240時間増）
定例会 12回開催

・地域サポーターの会ちくさ

利用会員 33人 提供会員 18人 賛助会員 12人
賛助団体 2団体
年間活動時間 754時間（前年比225.5時間増）
定例会 毎月第2火曜日 12回開催

◆住民参加型在宅福祉サービスグループへの支援 **新** **募**

各グループへ助成金 30,000円×5グループ

◆地域助け合い活動推進助成事業の実施

いいね！大羽根	助成金	23,000円
くらしサポートこもの愛の手	助成金	15,000円
たすけあい♥竹永	助成金	17,000円
朝上ささえ愛	助成金	31,000円
地域サポーターの会ちくさ	助成金	16,000円

(4) 地域福祉活動支援事業および推進事業

◆青年学級（勤労軽度知的障がい者の集い）の開催と充実

4回開催 参加者 延べ 21人

◆在宅重度障がい者「生活交流会」の開催と充実

6回開催 参加者 延べ 11人

◆安心安全対策事業の実施

実施なし。

◆小地域ふれあいサロンの開発運営および自立支援

サテライトデイサービス事業（管理No.2-1-6）に記載

◆福祉車両貸出事業の実施 **募**

貸出件数 293件

◆福祉機器貸出事業の実施 **募**

車いす	130件
ポータブルトイレ	37件
シャワーチェア・浴槽台・浴槽手すり	24件
床置き型手すり	20件
杖・松葉杖	13件
歩行器・歩行車	12件
スロープ	2件

◆障がい児サマースクールの協力

障がい児（者）を持つ親の会「めぐみの会」が令和3年3月で解散し事業が実施されなかった。

(5) ふれあい相談センター事業

◆ふれあい相談センターの運営

①一般相談	心配ごと相談	48日	39件（面接34件、電話5件）
	一般何でも相談	24日	16件（面接15件、電話1件）
②専門相談	法律相談	12日	92件
	人権相談※	48日	（心配ごと相談に含む）
	行政相談※	12日	（心配ごと相談に含む）

※役場総務課主管

③職員による相談対応 31件（面接1件、電話30件）

【まとめ】

- 鶴川原地区福祉会ふれあい鶴川原の活動支援を行った。ふれあい鶴川原の取り組みとして、住民の横のつながりをつくるために、鶴の里茶の間という集いの場づくりを行った。
- 暮らしサポートこもの愛の手（住民参加型在宅福祉サービスグループ）が7月から活動をスタートさせた。

- 地区福祉懇談会の開催については、来年度の地域福祉活動計画の作成に向けて各地区の意見の聞き取りを行った。
- ふれあい弁当サービス（地区別方式）は、新型コロナウイルスの影響により業者の弁当を配達していたが、令和4年4月から竹永地区を除くすべての地区で、11月からは全地区において、ボランティアによる調理が再開した。調理が再開になったことに伴い、活動するメンバーが少ないことが前年度よりも浮き彫りになった。

センター給食サービス（センター方式）では、4月前半のみ業者の弁当を配達したが、4月後半以降はボランティアが調理をした弁当を配達することができた。

利用者には、手作りの弁当が届くという楽しみがあり、地域での見守りや孤独死の防止や早期発見の役割を担っている。

令和4年度は、配達時に利用者が倒れているなどの緊急対応はなかった。
- 住民参加型在宅福祉サービスグループの活動は、昨年度に比べて活動時間数が増加している。また、各グループが地域助け合い活動推進助成事業の助成金を活用して、感染予防のための消耗品を購入するなど、活動の充実を図った。
- ふれあい相談センター業務は、新型コロナウイルス感染症対策により、曜日によっては相談員を減らして対応した。
- 青年学級は、生活交流会と合同で4回開催した。3月にはバスを利用して、県外へお出かけするなど感染症対策をしながら行事を実施した。
- 生活交流会は、利用会員が減少し、行事参加者が少ない状況が続いている。今年度も引き続き青年学級と合同で行事を開催。今後も支援ボランティアの協力を得ながら行事を企画していきたい。
- 福祉車両貸出は、貸出数は前年度より大きな変化はなかったが、新しい車両は大きな車いすにも対応でき、このタイプの貸出が多かった。
- 福祉機器貸出は、今年度も歩行車やスロープなど新しく整備したものが数点あり、幅広い需要に応えられるようになった。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-4
	拠点区分	補助金事業	決算書	74頁
	サービス区分	福祉資金貸付事業		

【事業報告】

(1) 生活困窮者支援事業

◆町社会福祉協議会福祉資金の貸付、償還指導

貸付決定件数 0件

貸付決定額 0件

◆三重県社会福祉協議会生活福祉資金の貸付取り扱い、償還指導

貸付相談件数 延べ98件

貸付決定件数 21件

貸付決定額 5,461,000円

<内訳>特例緊急小口資金 12件 2,400,000円

特例総合支援資金 3件 1,800,000円

緊急小口資金 3件 220,000円

臨時特例 0件 0円

福祉費 0件 0円

教育支援資金 2件 1,041,000円

◆三重県社会福祉協議会生活相談支援センターへの協力

生活困窮に関する相談があった際、センターと情報共有しながら、窓口相談や自宅訪問など自立に向けた支援を行った。

◆家計相談事業の実施

相談件数 0件

◆相談窓口への仲介

相談内容に応じて各種相談窓口への仲介を行った。

◆コープみえと協定を結び、食料品や日常用品を生活困窮者に配布

他制度につながるまでの緊急時の食糧支援として生活困窮者に配布している。

【まとめ】

○ 新型コロナ特例貸付が令和4年9月30日で終了となり、貸付決定件数および相談件数は大幅に減少した。令和5年1月から新型コロナ特例貸付の償還が開始しているが、今でも生活が苦しいため、償還猶予や免除の相談が増えてきている。なかには収入減少や不安定就労の状況が続いており、物価高騰の影響も受けて生活が苦しい方が相談に来られる場合もある。償還が困難な方へは償還猶予や免除、少額返済を提案し、個々の状況に配慮した対応に努めるとともに、生活再建に向けて関係機関と連携して支援に取り組んだ。

○ 食料に困っている方や世帯に対し、生活協同組合コープみえ等からの寄贈食料品を提供し、食事の確保の一助になっている。福祉資金の相談から食料品の提供

につながるケースもあり、金銭による支援だけでなく現物による支援を行うことで生活の安定を図っている。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-5
	拠点区分	補助金事業	決算書	74頁
	サービス区分	共同募金事業		

【事業報告】

(1) 共同募金事業

◆共同募金委員会の開催

1回開催

◆共同募金運動の実施

目標額 5,890,500円

実績額 6,234,961円 (達成率105.6%)

<内訳>戸別募金	5,653,800円
学校募金	48,717円
職域募金	315,011円
法人募金	87,300円
個人募金	127,521円
その他(UMOU募金、利息)	2,612円

◆歳末助け合い運動の実施 **募**

目標額 250,000円

実績額 250,000円 (達成率100%)

・一人暮らし高齢者への歳末もち配布事業

昨年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、慰問品であるのし餅を町内の和菓子店に発注し、菰野町民生委員児童委員協議会の協力により、70歳以上の一人暮らし高齢者506人に配布した。

【まとめ】

- 区長会の協力により、戸別募金では従来どおり住民からの協力を得られたこと、町内の福祉協力校7校で児童や生徒に学校募金に取り組んでいただいたこと、職域募金や個人募金に力を入れ、「ガチャガチャ募金」を設置するなど、新たな募金方法を取り入れたことによって、募金実績額が目標額を大きく上回る結果となった。

新型コロナウイルス感染症の影響で実施できない事業がある中、今までの配分事業を見直した。住民から理解を得ることができ、より多くの方に還元できる使いみちを考え、地域福祉の推進に有効な事業を配分事業として申請している。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-1-6
	拠点区分	補助金事業	予算書	74頁
	サービス区分	三泗鈴亀ブロック災害時広域連携事業		

【事業報告】

(1) 三泗鈴亀ブロック災害時広域連携事業

- ◆三泗鈴亀ブロック内での初動時広域連携の研修、検討
担当者会議（5回）内1回オンライン
三泗鈴亀ブロックシナリオの作成、訓練の実施

【まとめ】

- 令和4年度の三重県社会福祉協議会災害時広域連携協議会の三泗鈴亀ブロック幹事は川越町が担当。
令和4年度は、災害時の社会福祉協議会の応援体制を円滑に構築できるよう、発災時の各市町の動き、各ブロック間の連絡体制を具体的に考え、初動訓練シナリオを作成し、実施した。

会計区分	事業区分	社会福祉事業
	拠点区分	受託事業
	サービス区分	日常生活自立支援事業

管理No.	1-2-1
決算書	88頁

【事業報告】

(1) 日常生活自立支援事業 **三重県社会福祉協議会から受託** **重**

◆市町社会福祉協議会センター業務

利用者数 38名 (令和5年3月末時点)

援助回数 延べ978回

<内訳>生活支援員 684回

専門員 294回

生活支援員 7名 (令和5年3月末時点)

主な支援内容

定期的な面会、預貯金の払い戻し・預入、生活費の代行支払
書類等預かり

◆福祉サービス利用援助事業

【まとめ】

- 独居で身寄りのない利用者が多いが、入院、入所、死亡等で突発的に必要になる業務も、当事業で対応することで安心につながっている。
- 新型コロナウイルスによる面会制限は徐々に解除されているものの、必要に応じて施設相談員から様子を聞き取る等の協力を仰ぎ、支援の継続をしている。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-2-2
	拠点区分	受託事業	決算書	88頁
	サービス区分	老人福祉センター事業		

【事業報告】

(1) 菰野町老人福祉センター **町から受託**

◆老人福祉センター事業の実施

開館日数 294日
 新型コロナウイルスワクチン接種による休止 7日
 大雪による不具合、節水要請による休止 3日
 一般入浴利用者数 延べ40,145人 (一日平均137人)
 歩行浴利用者数 延べ5,692人 (一日平均19人)
 けやき講座 延べ120回 延べ860人
 (伊勢型紙、陶芸、ステンシル、俳句)
 水中歩行教室 (初心者向け、未登録者向け) 中止
 水中歩行相談会 中止
 音楽室 利用中止

◆温泉スタンドの運営協力、コイン販売

温泉スタンド無料開放 (令和5年3月31日にて無料開放終了)

【まとめ】

- 昨年度から引き続き、一般浴・歩行浴は地区別での利用 (月・水・金は菰野地区、火・木・土は鶴川原・竹永・朝上・千種地区) とし、教養娯楽室や図書室等の利用は休止とした。けやき講座については、受講定員を縮小して4講座を5月から開講した。
- 今年度についても、施設や設備の老朽化による故障や不具合が多く発生し、それらの対応に追われた。
- 日頃から一般浴や歩行浴の利用者の心身の状態に目を向けるようにしており、変化が見られた時には、地域包括支援センターなどの相談機関につなげている。

会計区分	事業区分	社会福祉事業
	拠点区分	自主事業
	サービス区分	介護保険事務

管理No.	1-3-1
決算書	96頁

【事業報告】

◆介護保険等の給付管理業務

【まとめ】

- 滞りなく給付管理業務及び利用料徴収業務を行うことができた。
請求業務を中心的に行う職員が体調不良等で不在になったことで、その他の職員が請求業務を担えるようになった。
- 長年にわたり徴収できなかった利用料について、全額徴収することができた。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-2
	拠点区分	自主事業	決算書	96頁
	サービス区分	訪問介護事業		

【事業報告】

(1) 菰野町ホームヘルパーステーションけやき

◆訪問介護事業（介護保険・総合事業）の実施

◎訪問介護

稼働時間	8, 855時間
身体介護	6, 560時間
身体生活	1, 513時間
生活援助	782時間
契約者数	新規契約 48人
	契約終了 46人
内訳	長期入院入所 15人
	終末期（6か月未満） 16人
	他サービスに移行 13人
	その他 2人
	3月末契約者数 58人

◎第一号訪問事業（総合事業）

稼働時間	760時間
月単価	訪問型独自サービスⅠ 25時間
	訪問型独自サービスⅡ 72時間
	訪問型独自サービスⅢ 0時間
回数単価	訪問型独自サービス短時間 なし
	訪問型独自サービスⅣ 31時間（菰4・四27）
	訪問型独自サービスⅤ 409時間（菰308・四101）
	訪問型独自サービスⅥ 121時間（菰98・四23）
契約者数	新規契約 7人（菰6・四1）
	契約終了 5人（菰4・四1）
内訳	長期入院入所 2人
	死亡 0人
	他サービスに移行 0人
	その他 3人
	3月末契約者数 10人（菰7・四3）

【まとめ】

- 前年度から契約者数・終了者数はほぼ横ばいで、稼働時間の若干の増加がみられた。
- 訪問介護の特性上、急な依頼や内容・時間の変更が多く、臨機応変な対応や必

要性を見極めるなどの専門的な判断をしながら対応している。また、登録ヘルパーからの多岐にわたる報告を処理する必要があることから、事務処理に時間がかかっている。

- 居宅介護支援事業所から頻回な訪問が必要なケースの依頼が多く、職員数の多さや休日早朝夜間の対応など事業所の特性が評価されているが、現在の職員数では対応しきれず、受け入れが難しくなっていることもある。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-3
	拠点区分	自主事業	決算書	96頁
	サービス区分	通所介護事業		

【事業報告】

(1) 菰野町デイサービスセンターけやき

◆通所介護事業（介護保険・総合事業）の実施

開所日 303日

契約者数 73人（令和5年3月末時点）

新規 26人

終了 18人

利用者数延べ 6,850人

内訳 介護 5,170人

総合事業 1,680人

◆日中一時支援事業（障害福祉サービス）の実施

利用日数 102日

契約者 4人

利用者数延べ 146人

【まとめ】

- 利用者に一日笑顔で過ごしていただくため、職員一人ひとりが創意工夫を凝らしたレクリエーションを実施した。
- コロナ禍でも利用者が安心安全にデイサービスを利用できるよう、感染対策を徹底していたが、年末に利用者、職員が新型コロナウイルスに感染し、閉所を余儀なくされた。しかし、その後は感染者も出ず、通常どおりにサービスを提供できた。
- サービス運営については、年度後半は職員が減少し、新規利用者の受け入れが困難な状況であった。しかし、利用回数の増加を希望する利用者については、送迎の見直しを行うなど、利用者の希望どおりに利用回数を増やすなど調整を行った。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-4
	拠点区分	自主事業	決算書	96頁
	サービス区分	居宅介護障害事業		

【事業報告】

(1) 菰野町ホームヘルパーステーションけやき

◆居宅介護事業（障害福祉サービス）の実施

稼働時間 5,780時間

身体介護 5,203時間

通院介助 106時間

家事援助 471時間

回数 身体介護 6,628回

通院介助 60回

家事援助 835回

新規契約 6人

契約終了 1人

内訳 入院入所 0人

死亡 0人

他サービスへ移行 1人

年度利用者数 34人

内訳 身体障害者 13人

知的障害者 10人

障害児 2人

精神障害者 9人

◆同行援護事業（障害福祉サービス）の実施

稼働時間 354.5時間 回数256回

新規 0人

終了 0人

年度利用者数 2人

◆移動支援事業（障害福祉サービス）の実施

稼働時間 393時間

回数 166回

年度利用者数 10人

【まとめ】

- 居宅介護は、新規ケースが若干増えたが時間数の大きな変動はない。
- 同行援護は、買い物等の定期利用が定着、安定している。
- 移動支援は前年度同様、コロナ禍の外出自粛が影響し、下げ止まっている。
来年度において、休日・早朝帯に稼働可能な登録ヘルパーの数人の離職があり、
現在訪問している時間帯も他事業所に一部移行中であるため、来年度は時間数の

減少となると考えられる。移動支援などの長時間外出利用が再開すると、通常の訪問業務に支障がでると考えられ、移動支援の利用に際して、時間数制限を設けるなどし、再開へ向けつなげていくことも必要である。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-3-5
	拠点区分	自主事業	決算書	96頁
	サービス区分	相談支援事業		

【事業報告】

(1) 菰野町障がい者虐待防止センター業務 **町から受託**

◆障がい者虐待防止センターの運営

通報件数	2件
＜内訳＞身体的虐待	1件
心理的虐待	1件
経済的虐待	0件

(2) 菰野町居宅介護支援事業所けやき

◆計画相談支援事業（障害福祉サービス）の実施

給付対象者数	173件（令和5年3月末時点）
＜内訳＞障がい者	143件
障がい児	30件
給付管理数	延べ733件

◆障害支援区分認定調査（障害福祉サービス）の実施 **町から受託**

認定調査数	55件
＜内訳＞町内	53件
町外	2件

【まとめ】

- 障がい者虐待防止センターの運営については、行政、障がい者相談支援センターや相談支援事業所などと連携して虐待の早期発見・解決を図っている。
- 施設職員による利用者への注意の言葉がけについての、心理的虐待ではないかとの通報が入った。
- 特に知的障がい児の利用者が増えているが、相談支援専門員2人体制で170人程度の利用者を担当しているため、行政などから新規利用者の依頼があってもすぐに対応できずに待ってもらった状況がある。また利用削除になっても、再び相談があり、計画相談が再開する利用者も複数名あった。記録の簡素化など業務の効率化に努め、新規利用者をなるべくスムーズに受け入れられるようにしたい。
- 相談支援部会の出席や研修機会を増やすことで職員のスキルアップを図り、多種障がいの対応ができることを目指した。
- 町内ではサービス事業所が少ない為、事業所開所の情報があれば利用者に情報提供し、障害者総合支援法以外の社会資源の紹介も行った。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-4-1
	拠点区分	わかば作業所	決算書	111頁
	サービス区分	就労支援事業		

【事業報告】

(1) 菰野町わかば作業所

◆就労継続支援B型事業（障害福祉サービス）の実施

開所日数	244日
利用者数	30人（令和5年3月末時点）
新規登録者	4人
削除者	1人
利用人数（延べ）	5,036人
利用者平均工賃	21,997円/月
ボランティア数（延べ）	218人

◆日中一時支援事業（障害福祉サービス）の実施

利用日数	2日
契約者数	1人（令和5年3月末時点）
利用者数（延べ）	2人

【まとめ】

- 多様な障がい種別の利用者を受け入れているため、それぞれに応じた柔軟な支援を行っている。
- 内職作業は、新型コロナウイルス感染症や世界情勢の影響により企業からの受注数の変動があった。そのため、作業過少になることもあった。
- 新規事業として、行政の請負作業が1件入り、利用者の作業機会と工賃収入につながった。
- 前年度以上に事業所内での新型コロナウイルス感染者および濃厚接触者が発生し、職員体制で業務負担が増大することがあった。事業所内でのクラスター発生はなく、事業所閉所はなかった。
- 日中一時支援は、今年度は1人の利用があった。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-4-2
	拠点区分	わかば作業所	決算書	111頁
	サービス区分	生活介護事業		

【事業報告】

(1) 菰野町わかば作業所

◆生活介護事業（障害福祉サービス）の実施

開所日数	243日
利用登録者数	14人（令和5年3月末時点）
	新規 1人
	削除 0人
利用人数	延べ2,461人
利用者平均工賃	7,223円/月
ボランティア数	延べ38人

【まとめ】

- 昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響により、事業が中止または縮小となり、なかなか計画どおりに事業を実施することはできなかった。しかし、前年度の実績を踏まえ、計画を一部変更し、規模を縮小した少人数での行事や、外食体験ではテイクアウトを導入するなどの新しい生活様式を取り入れて事業を実施することができるようになった。
- 昨年12月で閉所した施設から1人がわかば作業所の生活介護を利用することとなり、11月から利用登録者が1人増となった。
- 事業所内での新型コロナウイルス感染者の発生もあったが、日頃から検温・消毒など衛生管理を徹底することで新型コロナウイルス感染およびクラスター予防ができ、事業所への影響は最小限度に留めることができた。一方で、感染対策にかかる職員の業務負担が多くなった。
- 特別支援学校との関係性を実習受け入れおよび卒業後の利用につながるよう、日頃から関係機関との連携を密にすることで利用者増につなげていく。

会計区分	事業区分	社会福祉事業	管理No.	1-4-3
	拠点区分	わかば作業所	決算書	111頁
	サービス区分	精神デイケア事業		

【事業報告】

(1) 菰野町在宅精神障害者支援事業 **町から受託**

◆フリースペース事業の実施

開所日数	50日
利用者数	9人（令和5年3月末時点）
新規	2人
削除	0人
利用人数	延べ219人
ボランティア数	延べ214人
見学、実習受け入れ	延べ6人
相談件数	6件

【まとめ】

- 今年度は新型コロナウイルスの影響を受けず、昨年度よりも多くの日数を開所することができた。
- 今年度は新規2人の利用が増えた。うち1人は精神科病院からの相談で、退院後の地域移行支援を担うことができた。
- フリースペース事業の運営に協力してもらっているボランティアが減り、今後の運営について難しくなることが想定される。そのため、他の障がい者支援をしているボランティアにも協力を依頼し、ボランティアの拡充を図っている。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-1
	拠点区分	受託事業	決算書	125頁
	サービス区分	社会福祉大会事業		

【事業報告】

(1) 社会福祉関係者等の顕彰

◆菰野町社会福祉大会の開催 **町から受託**

令和4年9月3日(土) 菰野町民センター

被表彰者 52人

◆叙勲、全国社会福祉大会、三重県社会福祉大会等の顕彰推薦

○三重県社会福祉大会

令和4年11月1日(火) 三重県総合文化センター

三重県共同募金会会長表彰 共同募金運動奉仕功労者 1人

【まとめ】

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年間開催を中止していたが、3年ぶりに規模を縮小して式典(顕彰)のみ行うことができた。
- 心身障がい者自立更生、ひとり親家庭自立更生の顕彰については、時代に即した表彰要綱の見直しが必要である。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-2
	拠点区分	受託事業	決算書	125頁
	サービス区分	受託ヘルパー事業		

【事業報告】

(1) 在宅高齢者生活援助員派遣事業 **町から受託**

◆ふれあい訪問事業の実施（令和5年3月末時点）

福祉票総数 788世帯

＜内訳＞一人暮らし世帯 555世帯

高齢者世帯 103世帯

高齢者のいる世帯 78世帯

障がい者世帯 50世帯

その他 2世帯

訪問回数 7,785回

＜内訳＞一人暮らし世帯 6,960回

高齢者世帯 654回

高齢者のいる世帯 120回

障がい者世帯 45回

その他 6回

相談件数

＜内訳＞対象者からの相談 15件

行政機関等との相談 320件

民生委員との相談 971件

家族近隣等との相談 16件

緊急対応等 2件

医療等関係機関との相談 209件

◆ふれあいホームヘルプサービス派遣事業（福祉ヘルプ）の実施

利用者なし

【まとめ】

- 福祉票提出世帯の見守りについて、原則として一人暮らし世帯は月に一度、高齢者世帯は2か月に一度、高齢者のいる世帯は3か月に一度、それ以外の世帯は適宜訪問した。それにより安否確認や日常生活の相談を行い、必要に応じ医療機関や家族への支援要請などの対応を行った。
- 新型コロナウイルス感染予防対策のために、マスク着用の徹底、手指消毒、滞在時間などに留意して訪問を行った結果、担当職員の感染や濃厚接触者に該当する事はなかった。
- 訪問対象者から受けた相談は、必要に応じて地域包括支援センターや生活支援コーディネーター、民生委員と連携して解決にあたった。家族とも連携を図ること生活課題の早期発見と早期対応につなげることができた。

- 民生委員児童委員協議会の定例会に参加し、本事業の説明をすることで、民生委員の理解を促す事ができた。それにより、福祉票対象者の見守りにおいて、連携を取りながら行うことができた。
- 訪問時に、認知症やフレイル予防のために必要な情報を提供し、みんなの運動サロンなどの介護予防事業への参加などを促した。
- 行政や医療機関からの情報提供で、ふれあい訪問が開始するケースも少なくないため、今後も適宜情報共有を行い、緊密に相談できる関係性を強めるよう努める。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-3
	拠点区分	受託事業	決算書	125頁
	サービス区分	地域包括支援センター事業		

【事業報告】

(1) 菰野町地域包括支援センター **町から受託** **重**

◆地域包括支援センターの運営

①総合相談支援業務の実施

相談および支援の相談件数	14,000件
＜内訳＞ 予防給付	8,931件
ハイリスク	89件
総合相談	4,029件
介護用品	86件
住宅改修	138件
虐待ケース	21件
権利擁護	56件
消費者問題	7件
困難ケース	6件
病院	576件
障がい相談	61件

②権利擁護相談支援業務の実施

高齢者虐待通報人数	1人
虐待ケース相談	21件
権利擁護相談	56件
消費者問題相談	7件

③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の実施

ケース検討会議	5回	延べ51人
町内ケアマネ研修会	0回	

④介護予防ケアマネジメント業務の実施

介護予防給付等の給付管理数	延べ3,942件
---------------	----------

⑤その他

介護サービス担当者会議	6回 (リモート)
医療・介護ネットワーク会議	4回 (リモート)
医療・介護ネットワーク研修会	3回 (リモート)
在宅医療講演会	0回
菰野町SOSネットワーク事業	
＜内訳＞登録者数	27人 (令和5年3月31日)
検索協力者数	333人 (令和5年3月31日)
認知症初期集中支援チーム	
＜内訳＞支援対象	0人

その他	3人	
チーム員会議	0回	
検討委員会	0回	
認知症講座	2回	延べ18人
けやきでお茶のみ会	11回	
認知症家族の集い定例会	0回	
傾聴ボランティア活動	20回	延べ40人

【まとめ】

- 新型コロナウイルス感染予防対策として、引き続き会議や研修はリモートで実施した。参加者の業務、移動の効率化のメリットの一方で、発言を躊躇する傾向も見られた。
- がんなど重篤な病気を抱えながらの在宅生活や、介護者が病気になり残された重度の認知症の方のことなど、突発的で即解決を求められるケースについては、複数の職員で対応に当たった。
- 相談件数については、全体の相談件数は前年度に比べ減少した。ただし、相談内容の内、新規、ハイリスク、住宅改修、権利擁護、病院、障害に関する相談は増加し、来所・電話・訪問による相談の内、来所による相談件数も前年度に比べ増加している。「来所・新規・困難・単発」のケースが多かった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-4
	拠点区分	受託事業	決算書	125頁
	サービス区分	配食サービス事業		

【事業報告】

(1) ひとり暮らし老人等配食サービス事業 **町から受託**

◆配食サービスの実施

昼、夕食（月～土）の訪問給食サービスの実施

実施日数 308日

利用者登録数 42人（令和5年3月末時点）

（内、利用料減免対象者15人）

配食数 13,040食

<内訳>昼食 4,883食（一日平均16食）

夕食 8,157食（一日平均26食）

【まとめ】

- 前年度より配食数は減少している。新規利用者数は昨年度より増加したが、入院や死亡により短期で終了するケースが多く、配食数の増加には至らなかった。
- 依然として服薬確認を依頼されることが多く、対応に時間がかかることが多い。しかし、薬の飲み忘れを防ぐ支援をすることで、在宅生活の継続につながっている。
- 配食サービスを利用することで、在宅生活が維持できる方もいるため、この事業が継続できるよう配食数の確保が必要である。昼の配食はデイサービス等を利用される方も多く、配食数を確保するのは難しい状況である。
- 新型コロナウイルスに罹患した利用者には、パックの弁当箱への変更や配達員の感染症対策を行い対応した。
- 1月の大雪の時は、他部署の職員の協力を得て滞りなく配達できた。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-5
	拠点区分	受託事業	決算書	125頁
	サービス区分	サテライトデイサービス事業		

【事業報告】

(1) サテライト型デイサービス事業 **町から受託** **重**

◆高齢者ふれあい・いきいきサロンの運営支援

いきいきサロン実施 33箇所 306回

参加者 延べ3,957人

地域の茶の間実施（毎週型のサロン） 1箇所 103回

参加者 延べ1,308人

◆いきいきサロン交流会の開催

新型コロナウイルスの影響により中止

【まとめ】

- いきいきサロンの運営については、それぞれのサロンにおいて参加者で内容を考え、地域独自の活動ができるようになってきた。計画を立てる際、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した内容と参加がしやすいサロン計画を提案した。
- 新型コロナウイルス感染予防対策を取りながら、ほとんどのサロンが活動を再開している。
- 参加者の高齢化による移動の困難さと開催日程の周知方法が課題となっている。
- 毎週開催のサロン地域の茶の間も新型コロナウイルスの感染拡大前のように徐々に活動を再開させている。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-6
	拠点区分	受託事業	決算書	125頁
	サービス区分	介護予防事業		

【事業報告】

(1) 介護予防教室事業 **町から受託**

◆運動機能向上事業への協力

はつらつ体力づくり教室 短期集中予防サービス (2コース)
94回 延べ 263人

◆栄養改善事業への協力

町事業への職員協力はなかった。

◆口腔機能向上事業への協力

町事業への職員協力はなかった。

(2) 一般介護予防教室への協力

◇認知症予防事業

ここにこアップ教室 (1コース) 7回 延べ 57人

ここにこアップ教室OB会 (3か所) 25回 延べ 232人

◇フレイル予防教室 (2コース) 13回 延べ 211人

◇転倒予防運動教室 (5コース) 80回 延べ 524人

【まとめ】

- コロナ禍も3年目となり、感染予防策を講じながら事業を継続することに注力した。どの教室においても、換気や手指消毒、検温に対する戸惑いや抵抗はなく、習慣化されている様子がうかがえた。
- 短期集中予防サービスにおいては、日常生活は自立しているものの、認知機能に心配のある方や乗り合いタクシー乗降場所まで歩けないなどの理由により、送迎が必要な方の利用希望が増えており、対応策の検討が必要である。
- 教室終了者においても活動性を維持するため、地域の活動の場 (各種サロン) や趣味活動などに参加することを目標としているが、そこまでの運動機能の向上は難しい、地域になじみにくい、半年の参加が常態化したことで変化を受け入れにくいなどの理由により、地域資源への移行は難しく、介護事業所による通所サービス利用に移行する方もいる。運動指導内容の検討や個々の目標設定と同時に地域資源開発 (地域づくり) との連動が課題である。地域になじめない方にとっての社会参加の場として、保健福祉センターけやきの一般浴や共用部分での交流を短期集中予防サービス利用中に組み入れていくなど、より具体的で実践的な内容を取り入れていく必要がある。
- 一般介護予防教室のうち、フレイル予防教室は、後期高齢者健診の結果から一定条件のもと対象者を抽出し、個別通知による募集を行ったところ、これまでに参加したことのない多くの方から申し込みがあった。今後も、活動性の低下によ

る廃用性症候群やフレイル予防についての普及啓発のために、様々な機会を利活用し、参加者を募り、安心して参加できる教室の開催を開催していく。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-7
	拠点区分	受託事業	決算書	126頁
	サービス区分	いきいき拠点整備調査事業		

【事業報告】

(1) 多機能型高齢者いきいき拠点整備調査事業 **町から受託**

◆介護予防機能強化型サロンの創設

菰野地区みんなの運動サロン	23回開催	参加者延べ	1040人
鶺川原地区みんなの運動サロン	21回開催	参加者延べ	424人
竹永地区みんなの運動サロン	22回開催	参加者延べ	471人
朝上地区みんなの運動サロン	22回開催	参加者延べ	460人
千種地区みんなの運動サロン	23回開催	参加者延べ	352人
計		111回	延べ2,747人

◇動楽サロンの開催支援

動楽サロン（中菰野）	22回開催	参加者延べ	566人
------------	-------	-------	------

(2) 介護予防支援員養成事業 **町から受託**

◆お元気サポーター事業の実施

全10回講座 参加者延べ98人

(3) 認知症カフェ事業

◆認知症カフェ事業の推進

認知症カフェの開催

Tomo Café	8回	延べ
コモニサイズ	9回	延べ
つながりカフェ@おじま	12回	延べ

◆認知症カフェ事業への助成金交付

Tomo Café 助成金額	24,000円	8回
コモニサイズ助成金額	27,000円	9回
つながりカフェ@おじま	36,000円	12回

【まとめ】

- 多機能型高齢者いきいき拠点整備調査事業は、新型コロナウイルスの感染予防につとめながら、各地区毎月2回程度開催することができた。参加者数も徐々にコロナ禍前に戻りつつあり、新規参加者も各地区みられた。
- お元気サポーター養成講座は、受講者の健康づくりへの意識も高く、受講後は各地区でお元気サポーターとしてみんなの運動サロンの運営協力を行っている。
- 認知症カフェ事業の主催者が安心してカフェを開催できるよう、感染予防に配慮しながら開催のサポートを行った。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-8
	拠点区分	受託事業	決算書	126頁
	サービス区分	通訳養成研修事業		

【事業報告】

(1) 通訳者養成研修事業 **町から受託**

◆手話通訳奉仕員養成研修事業の実施

入門編 7.5時間 基礎 4.5時間 受講者数10人

◆要約筆記奉仕員養成研修事業の実施

現任研修 手書き講座4時間 パソコン講座4時間 受講者数17人

【まとめ】

- 手話奉仕員養成講座は、まん延防止等重点措置発出期間中は開講を中止したため入門編の修了は令和5年4月となり、引き続き基礎編を開講した。手話通訳者となるためには3年間の手話学習期間が必要なため、来年度はスキルアップ講座を開講し、手話通訳者養成講座に進む受講生をサポートしていく。また、手話学習のすそのを広げるため、手話通訳奉仕員養成講座入門編を開講する。
- 要約筆記奉仕員養成研修は、奉仕員より事前に聞きたい内容を講師に伝え、日頃の活動に活かせる研修となった。来年度は、菰野町で活動する要約筆記奉仕員を増やすために、難聴者教室などを開催し、要約筆記奉仕員の啓発もあわせて行っていききたいとの要望があった。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-9
	拠点区分	受託事業	決算書	126頁
	サービス区分	ファミリーサポートセンター事業		

【事業報告】

(1) ファミリー・サポート・センター事業 **町から受託**

◆ファミリー・サポート・センターの運営

◇サポート会員講習会の開催（全5回）受講者数7人 延べ35人

◇依頼会員の募集

赤ちゃん訪問、ブックスタート、各種健診、ひろば、子育てサロン、子育て支援センター（月1回土曜日開催）、広報紙等での周知。

◇サポート会員と依頼会員のコーディネート

会員数 903人

＜内訳＞依頼会員 636人（土曜日登録数18人）

サポート会員 188人

両方会員 79人

活動件数 1,061回

＜内訳＞保育施設の保育開始や保育終了後の預かり 90回

保育施設等までの送迎 191回

学童開始前や終了後の子どもの送迎・預かり 49回

学校の放課後の子どもの送迎・預かり 238回

保護者等の外出・リフレッシュ 71回

保護者の短時間・臨時的就労の送迎・預かり 14回

子どもの習い事等 60回

障がいを持つ子どもの送迎・預かり 87回

その他 261回

◇サポート会員フォローアップ研修開催 参加者数14人

◇サポート会員と依頼会員の交流会開催 参加者数63人

【まとめ】

- 利用回数は昨年度より1割減となったが1,000件を超し、多様な依頼内容を慎重にマッチングし活動につなげたことで、相互会員の信頼関係が深まるとともに地域で交流ができるケースが多かった。
- フォローアップ研修会や交流会は会員同士顔を合わせ、笑顔がこぼれる良い機会となった。顔のみえる関係は大切に今後の活動にもつながると実感した。
- 月1回の土曜日の子育て支援センターでの相談・登録会には家族そろって参加する方が多く、父親にもファミサポの事業を周知する機会が多くあった。また、助産師の産後1か月の赤ちゃん訪問後の登録も多く、安心して利用できる仕組みとして高い評価を得ることができた。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-1-10
	拠点区分	受託事業	決算書	126頁
	サービス区分	子育て支援事業		

【事業報告】

(1) 子育て地域支援事業 **町から受託**

◆子育て支援事業の実施 **募**

◇子育てサロンの実施

菰野地区	22回	延べ	407人
鵜川原地区	21回	延べ	312人
竹永地区	19回	延べ	121人
朝上地区	19回	延べ	129人
千種地区	22回	延べ	410人
計	103回	延べ	1,379人

親子633組

◇子育て支援者およびグループの育成

子育てキーパーソン養成講座の開催（全2回）

受講生数14人 延べ28人

◇子育て支援行事の実施

①ベビーマッサージ（産後のリフレッシュ体操）の開催

6回実施 参加者数 54組

②親子で楽しむ人形劇（3回公演） 177人

◇子育て支援の啓発（子育て通信「こもっ子 mama」の発行）

年4回（春・夏・秋・冬）全戸配布

◆養育支援訪問事業

訪問回数	44回
訪問時間	85時間
利用人数	6人
訪問スタッフ	5人

【まとめ】

- 子育てサロンの参加者は竹永、朝上地区が著しく少ないため、イベントは合同開催し運営側の負担も軽減した。
- 3年ぶりに子育てキーパーソン養成講座を短縮スケジュールで実施し、子育てサロンの運営スタッフを育成した。受講後、産後1年で仕事復帰する方が多くスタッフ不足ではあったが、卒業したスタッフに協力を得て運営することができた。
- ベビーマッサージは父親の参加も多く、父親の交流の場となり情報交換できる機会となった。
- 共同募金配分事業の親子で楽しむ人形劇は、コロナ対策と園児の参加も考慮し3回公演したことで、ゆったりと親子で楽しめる時間を過ごせて好評であった。
- 養育支援事業は、新規利用者の訪問が短期間で終了するケースが多く、利用回

数は昨年度の半数となった。精神不安の利用者が多く寄り添って傾聴することで、育児に前向きなり家庭環境の整備を行った。

会計区分	事業区分	公益事業
	拠点区分	受託事業
	サービス区分	あいあい自動車運営事業

管理No.	2-1-11
決算書	126頁

【事業報告】

(1) 公共交通空白地有償運送事業

◆あいあい自動車事業の実施 **町から受託**

大羽根園地区にて運行

運行回数 12回

走行距離 41.2km

旅客実数 8人

【まとめ】

- 菰野町の地域公共交通会議において、実証実験の終了が決定され公共交通空白地有償運送が廃止されることとなり、あいあい自動車運営事業は令和4年度をもって終了となった。

会計区分	事業区分	公益事業
	拠点区分	受託事業
	サービス区分	生活支援体制整備事業

管理No.	2-1-12
決算書	126頁

【事業報告】

(1) 生活支援体制整備事業

◆生活支援コーディネーターの配置 **町から受託** **重**

各地区対応件数

菰野地区	延べ170件
鵜川原地区	延べ66件
竹永地区	延べ266件
朝上地区	延べ402件
千種地区	延べ93件

福祉相談窓口（13時30分から16時）

菰野地区	木・金曜日	93日
鵜川原地区	火・金曜日	96日
竹永地区	月・木曜日	90日
朝上地区	火・水曜日	96日
千種地区	月・水曜日	83日

- ・住民の助け合い活動についての相談とサポート
- ・地区民生委員児童委員協議会活動への対応
- ・介護認定や在宅介護に関する相談等受付
- ・介護認定非該当や精神疾患でサービス利用がない方へのサポート
- ・生活支援ニーズの把握
- ・地域ボランティアの活動サポート

【まとめ】

- 各地区において助け合い活動が安心して実施できるよう、生活支援コーディネーターがサポートを行った。
- 地域で活動するボランティア、民生委員児童委員や高齢者が身近に相談できるよう各地区で週2回の福祉相談窓口を行った。
- 週2回の福祉相談窓口をコミュニティセンターにおくことで、地域の福祉相談役である民生委員児童委員やボランティアからの地域情報がより集まりやすくなっている。住民からの直接的な福祉相談というよりは、民生委員やボランティアを介しての福祉相談を行う場合が多い。地域のニーズや、高齢者の暮らしやすさ・福祉のしくみを住民とともに考え構築していく。
- 各地区において、地域の見守りから生活支援につなぐというケースも多く、地域全体で福祉的な困りごとを把握し、サポートしていく。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-1
	拠点区分	自主事業	決算書	144頁
	サービス区分	居宅介護支援事業		

【事業報告】

(1) 居宅介護支援事業所けやき

◆居宅介護支援事業（介護保険）の実施

開所日数	243日
給付管理数	187件（令和5年3月末時）
＜内訳＞介護給付	187件
予防給付	0件
給付管理延べ数	2,413件
＜内訳＞介護給付	2,413件
予防給付	0件
職員研修	45回 延べ106人
部内会議	51回 延べ473人

◆要介護認定調査（介護保険）の実施 **町から受託**

認定調査数	741件（在宅 456件、施設 285件）
＜内訳＞菰野町	701件（在宅 455件、施設 246件）
四日市市	13件（在宅 0件、施設 13件）
川越町	0件（在宅 0件、施設 0件）
朝日町	2件（在宅 0件、施設 2件）
その他	25件（在宅 1件、施設 24件）

【まとめ】

- 11月以降の入所、死亡、長期入院などによる削除者が例年より多く、年度末時点での給付管理数が昨年度よりも減る結果となった。
- 新型コロナウイルス感染予防のため、モニタリングやサービス担当者会議などの面会の機会を利用者、家族、サービス事業所と協議しながら、引き続き電話確認やリモート開催も含め無理のない形で行った。
- 8050問題や協力者がおらず一人で介護する世帯など処遇困難な要素を抱えた利用者が増えてきた。多職種との連携や部署内外との相談を行い、介護支援専門員をサポートする体制が必要となってきた。
- 新型コロナウイルス感染予防対策が続いているが、法定研修ではリモートによる研修開催が増え、資格更新研修などが安心して受講できるようになっている。必須である毎週の部内会議はリモートにより滞りなく行えた。ケース検討会議や外部事業所との共同企画による勉強会などは参加人数や開催場所の配慮により対面による開催も増えた。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-2
	拠点区分	自主事業	決算書	144頁
	サービス区分	訪問看護事業		

【事業報告】

(1) 訪問看護ステーションけやき

◆訪問看護事業（介護保険、医療保険）の実施

開設日数 259日

利用延べ人数 48人（医療保険23人、介護保険25人）

訪問回数 2,239回

（医療保険1,094回、介護保険1,145回）

【まとめ】

- 延べ人数は前年度より若干減少したが、終了者数が3人と少なかったため訪問回数は前年度を上回った。
- 訪問内容としては病状の観察以外に服薬管理やリハビリが多い。特に認知症の利用者は看護師から説明される方が受け入れられることが多く、介護者の負担軽減にもつながっている。
- 新型コロナウイルス感染症に罹患した利用者や濃厚接触者にあたる利用者への訪問も数回あったが、看護師が罹患することなく業務を行うことができた。
- 職員のスキルアップについては研修への参加がほとんどできなかった。来年度は訪問看護ステーション協議会へ入会し、研修に参加していく。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-2-3
	拠点区分	自主事業	決算書	144頁
	サービス区分	研修事業		

【事業報告】

(1) 職員の資質向上 **重**

◆資格取得支援

職員の有資格者数（令和5年3月末時点 職員135人中）

<内訳> 社会福祉士資格保持者	22人
介護福祉士資格保持者	70人
介護支援専門員資格保持者	36人
精神保健福祉士資格保持者	1人
保健師資格保持者	2人
看護師資格保持者（准看護師含む）	13人
介護職員初任者研修等修了者	81人

◆各種研修への参加促進

三重県社会福祉協議会が実施する相談支援従事者研修等への参加。

(2) 福祉人材養成業務 **重**

◆福祉人材育成の実施（各種研修・講座の開催と協力）

・介護福祉士実務者研修の開催（ユマニテクキャリアアカデミーに協力）

開催日数	7日	延べ	125人（他教室振替者含む）
受講生	18人	修了者	18人

【まとめ】

- 職員の資質向上について、専門的な知識や技術を持って援助にあたる専門職の存在は、住民や関係機関から信頼を得る上で重要であり、資格取得や更新等を支援する環境は、労働面、金銭面、設備面等、変わらず多方面で整えている。
- 福祉人材養成業務については、国家資格である介護福祉士の資格取得を目指すための介護福祉士実務者研修を学校法人に会場提供、講師や運営スタッフとして協力する形で実施した。受講生は前年度より減少したが、町内外の多数の事業所から受講があった。今後も介護人材不足が懸念されるが、高い知識と技術を持つ専門職の育成は信頼にもつながることから、来年度も研修開催を協力して継続していく。

会計区分	事業区分	公益事業
	拠点区分	自主事業
	サービス区分	しらゆり事業

管理No.	2-2-4
決算書	144頁

【事業報告】

(1) 喫茶しらゆり

◆自動販売機の設置運営

自動販売機 2 台設置

【まとめ】

- 令和元年度末で喫茶しらゆりの運営業者が撤退し、その後、新型コロナウイルスの拡大により休業が続いている。社会活動も以前の状態に戻りつつあり、今後、喫茶しらゆりの運営について、菰野町と協議する必要がある。

会計区分	事業区分	公益事業	管理No.	2-3-1
	拠点区分	ことぶき人材センター	決算書	153頁
	サービス区分	ことぶき人材センター事業		

【事業報告】

(1) ことぶき人材センター **町から受託**

◆ことぶき人材センターの運営

会員登録の推進

会員数（令和5年3月末現在） 96人（男63人、女33人）

就労先の開拓

受注件数 797件

会員への就労斡旋等

請負契約金額 72,444,535円

就業人員 延べ10,029人

【まとめ】

- 令和4年度の請負金額は、72,444千円で対前年度比8,881千円となり、約14パーセントの上昇となった。本年度より事務費の改定を実施したが、その改定による増加分を除いても請負金額で約5,000千円を超える増加となり、受注件数の増加とともに空き家、空き地管理の依頼で1件当たりの契約金額の増加が顕著であった。
- 企業の定年延長の影響により新規会員の加入が少なく、年々、会員の高年齢化が課題となる中、会員の余暇時間への対応、生きがいを提供できるよう、多種多様な就労機会の創出が重要であり、高齢者への加入促進および町内企業へ新規受注に向けた周知啓発に努めた。

会計区分	事業区分	その他	管理No.	3-0-0
	拠点区分		決算書	- - -
	サービス区分			

【事業報告】

(1) 各事業における感染症対策の強化 **重**

(2) 事務業務の見直しと事務の効率化、職員の適正配置等 **重**

(3) 各種団体業務

◆町民生委員児童委員協議会

全員協議会（開催2回）、役員会（5回）、地区民生委員児童委員協議会
定例会・研修会、部会活動・研修会、センター給食配達、歳末助け合い
事業への協力・災害時安否確認訓練、県民生委員児童委員大会、県民生
委員児童委員ブロック別新任研修会、北勢5町民生委員児童委員協議会
会長・事務局会議（2回）、北勢5町民生委員児童委員協議会研修会、全
国民生委員児童委員大会（愛知県）、広報紙「わ」発行

◆町老人クラブ連合会

令和4年度菰野町老人クラブ連合会会員数 3,797人
菰野町老人クラブ連合会単位クラブ数 33クラブ
役員会（5回）会長会（4回）臨時三役会（2回）臨時役員会（1回）
広報紙発行2回
囲碁将棋大会 21人
グラウンドゴルフ大会 124人
友愛訪問 177人対象
各単位クラブ活動回数 延べ 5,680回
各単位クラブ活動参加者 延べ55,007人
新型コロナウイルスの影響による中止事業

こものいきいきクラブのつどい、役員研修旅行、女性部クラブ活動
（コーラス、健康体操、手芸、グラウンドゴルフ）

◆町心身障がい者福祉会

理事会（10回）、特別理事会（1回）
障がい者の日記念のつどい、県外研修旅行、ボウリング大会
広報紙発行

◆町母子父子寡婦福祉会

総会、役員会開催（11回）、全会員へ生活支援ギフト券贈呈、クリスマ
スケーキ贈呈、寡婦会員交流事業いちご狩り、お便り発行

◆町ボランティア連絡協議会

役員会（6回）、代表者会（4回）、研修会（5回）、総会
所属 19グループ

各グループ活動回数	556回
参加者 延べ	2,540人

【まとめ】

- 民生委員児童委員協議会については、12月に一斉改選が行われ43人の民生委員児童委員が改選された。民生委員児童委員業務がスムーズに行っていたできるように事務局による新任民生委員児童委員研修会をブロックごとに実施した。また、全民児連、県民児協、町民児協の研修や催しについては新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら実施された。
- 町老人クラブ連合会については、新型コロナウイルスの影響により中止となった事業もあったが、3年ぶりに再開できたものもあった。今後についても状況を見ながら各事業の実施についてサポートを行っていく。また、会員数の減少と役員の担い手不足が慢性的な課題となっており、休会となるクラブも出ている。各クラブにおいて新規会員獲得のため活動している。
- 心身障がい者福祉会については、新型コロナウイルスの影響を受けて事業の実施が困難な状況ではあったが、感染症対策を行いながら県外研修旅行や障がいの日記念のつどいを実施することができた。行事への参加者が少ないことや、会員の高齢化が著しく、理事の担い手不足が懸念される。
- 母子父子寡婦福祉会については、寡婦交流事業として町内でいちご狩りを実施し、久しぶりに会員同士顔を合わせる良い機会となった。また、会員への生活支援ギフト券とお便りの配布は地区役員が訪問し、手渡しすることで顔つなぎができた。寡婦会員の高齢化と母子父子会員の新規加入がなく、会員数は減少している。
- ボランティア連絡協議会では、3年ぶりに街頭募金や企画行事を実施することができた。会員同士の親睦の場となり、会の活性化を図ることができた。しかし、新規加入団体はなく、会員数は減少傾向にある。